

第 108 回東葛しぜん観察会

我孫子の史跡と自然を訪ねて

鈴木俊二（我孫子市）

日 時：2014 年 11 月 9 日（日）9 時 30 分～12 時 30 分 天気：曇り

場 所：ふるさと散歩コース（我孫子市）

参加者：16 名、指導員：18 名

担当者：小島紀彦、坂部久美子、鈴木俊二、龍門海行

我孫子は昔から北の鎌倉と呼ばれて、大正時代に文人たちが手賀沼のほとりに居を構えて交流したりして、文化活動が盛んな場所でした。これらの史跡を巡って歩き、大正ロマンの良き時代に触れ、今でも残っている豊かな自然や風景を案内する観察会です。

早朝の小雨で直前のキャンセルがありましたが、出発するころには雨もあがり、4 つの班が駅前の混雑を避け、それぞれムクドリ除けの網・センダンの実や我孫子駅を誘致した飯泉喜雄顕彰碑や、白樺派記念碑の説明から始まりました。我孫子駅前(けやきプラザ)→山一林組生糸工場跡(現イトーヨーカドー)→名主跡→我孫子宿本陣→子の神道標→杉村楚人冠邸園→志賀直哉邸跡→捌けの道→瀧井孝作仮寓跡→子の神 4・5 号古墳→小さいチョウの館→子の神大黒天→旧村川別荘→水の館展望台(手賀沼一望)→解散の約 2 時間半の行程でした。

我孫子市は水戸街道の 5 番目の宿場町として栄えて来ましたが、明治 29 年に我孫子駅が誘致され、明治 34 年に成田線も開通して、益々発展しました。鉄道の利用による、明治 39 年に山一林組生糸工場、嘉納治五郎は理想の学園構想の実現を目指して我孫子に別荘を建てた。(紹介したのは地元の血脇守之助) 嘉納治五郎はロンドンの西方 35km、テムズ川に面したイートン校にならい、東京からほぼ同じくらいの離れた手賀沼に面した我孫子の地を選んだのではないかとされている。その後、嘉納治五郎の紹介で杉村楚人冠、柳宗悦、志賀直哉、武者小路実篤らが次々と居を構え、村川堅固・堅太郎、中勘助、瀧井孝作らが移り住んだ。

これらの邸宅・跡地や世界遺産の富岡製糸場(明治 5 年)とほぼ同じくらいに出来た山一林組生糸工場跡地(創業明治 12 年岡谷工場)や、蚕の繭のモニュメント、蚕霊塔、我孫子宿・脇本陣の史跡を他の見学会と同じように解説がありました。今までの観察会で行われている庭園・参道・道わきのアカシデ、タラヨウ、サンショウバラ、芭蕉、100 種近い椿、久兵衛さんの椿、イヌザクラ、チョウの館のツマキチョウ・アゲハチョウの蛹、子の神大黒天に伝わるヒイラギの話、イチョウ、ガシャモク、ハスなどの自然観察会らしい説明が行われ、いつもの東葛しぜん観察会とはスタイルが異なる観察会が実施され無事終了しました。このようなバリエーションの自然観察会も楽しいものでした。

<終了後のアンケート>

- ・我孫子の史跡が多くあるのにびっくりした
- ・我孫子に住んでいて知らなかった
 今度は自分で来たい
- ・単に史跡を見るだけでなくその周辺の
 自然も良く観察したい見る目が変わった
- ・少人数でのグループで話が良くわかった
 などの感想がありました。



志賀直哉邸跡 茶室風書齋